

### 【3】世知原地区ってこんなまちです

#### (世知原地区の紹介)

世知原地区は、平成17年に佐世保市と合併した旧北松浦郡世知原町です。標高777mの国見山を東に望み、県内で最長の21.9kmの佐々川の源流地帯で、緑豊かで自然に溢れた高原に囲まれています。

地区の面積は31.8km<sup>2</sup>で、その7割は国有林・市有林、民有林で占めています。人口造林の多さは県下でも上位です。市有林(旧町有林)は、町民が熱心に育ててきたもので、終戦後の町財政の基礎にもなりました。

世知原では、明治20年(1887年)頃から炭鉱の開発が始まり、昭和45年(1970年)まで石炭産業が盛んでした。炭鉱が最も盛んであった昭和33年(1958年)の人口は13,500名でしたが、炭鉱の閉山後は急激に減少し、平成20年9月には3,918名となりました。現在では、少子高齢化が進み、65歳以上の高齢者が32%を占めています。

世知原の歴史のなかで特筆すべきは、石炭輸送のため、明治29年(1896年)に、佐々までの鉄道が開通していたことです。佐世保市内の人たちも山を越えて汽車を見物に来ていたと伝えられています。その敷地は、現在サイクリングロードとして活用されています。

産業としては、農業(茶業・畜産など)が主体で、中でも世知原の米は味がよいと定評があります。また、世知原茶も名声が高く、生産者の中には天皇杯に輝いたり、毎年のように農水大臣賞に入賞している方もいます。新茶の時期に、世知原温泉の「山暖簾」の近くで催される「じげもん市」は、近隣の町からの多くの来客で賑わいます。

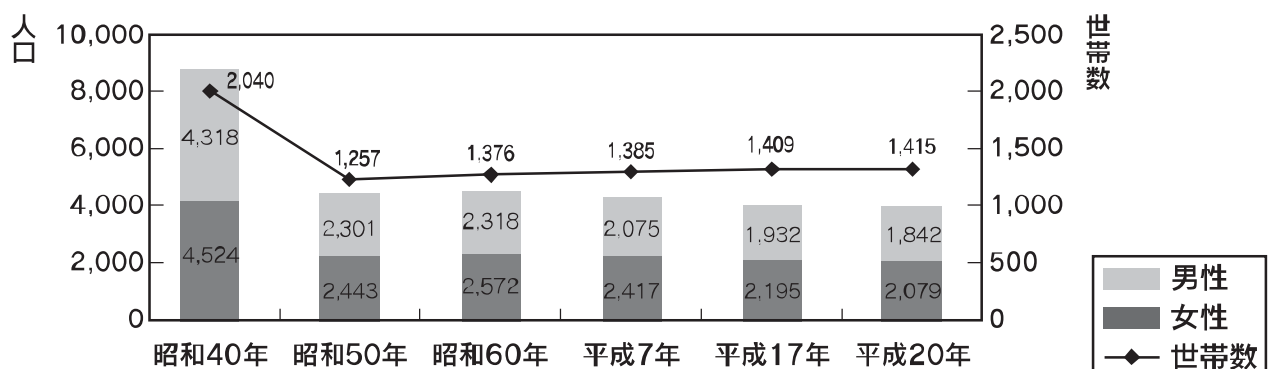
また、毎年9月の第1日曜日には「世知原ロードレース大会」が行われます。これは、オリンピック選手級の招待選手とともに1,000名を越す参加者が街中を走りぬける大イベントです。

高齢者福祉の面では、養護老人ホームと特別養護老人ホームの二つの施設があり、ショートステイのほか、社会福祉協議会支所の構内でデイサービスも実施され、地域住民によるこばれています。

〔佐世保市における世知原地区の位置〕



(世知原地区の人口推移) ※いずれも10月1日時点の統計資料



## （世知原地区“わがまち自慢”）

世知原地区には“自慢”がいっぱい！その一部を紹介します。

### 世知原温泉“山暖簾”

山暖簾は平成16年4月にオープンした温浴宿泊施設で、平成20年で営業5年目を迎えました。

故黒川紀章氏の設計プロデュースによる建築物で話題となり、全国の多方面から取り上げられました。また世知原の自然豊かな環境と立地も評価され、各地から多数の方が利用されています。何と言っても、東八天岳の山並みを望む露天風呂は最高です。ここへ来たら、自然以外「何もない、何もしない贅沢」をコンセプトに、気持ちのいい温泉につかり、美味しい料理を味わい、日頃の喧騒から離れ、ゆっくりと体と心を癒すことができます。



### 世知原茶

現在一般的に飲まれている日本茶は、建久2年（1191年）に栄西禅師が長崎県平戸市に茶の種を持ち帰ったことが始まりとされています。緑茶伝来の地である平戸市に一番近い産地として、世知原では昔から自生的に茶樹が生えていました。

また、世知原地区は、良質のお茶が生産される気候条件が整っており、冷涼で霧深い産地で生産される世知原茶は、「澄んだ香り」と「濃く深い味わい」が特徴です。各種大会でも数々の賞を受賞している世知原茶は、自園、自製、自販を行うことで、昔から県北地区で愛飲されています。

製茶製法は、「蒸し製玉緑茶」という製法で、日本で約3%程度しか生産されていない希少な製法です。一般的な煎茶より苦み渋みが少なく旨みが強いのが特性です。



### 国見の郷

世知原活性化施設「国見の郷」は、農業・農村の活性化を図り、交流、集会、展示の他、文化的イベントなども行える多目的利用施設として、平成16年4月17日にオープンしました。

展示販売コーナーには利用者協議会による新鮮な特産品が出品されており、特に世知原茶、世知原産の米、板山大根、榲等々は地元はもとより佐世保市内全域及び他県からも大変好評です。来館者数も年間平均4万3千人ほどになっています。

会議室を利用して、各種会合や研修、体験講座等も行われています。



### 石橋

世知原石橋群は、平成20年現在17橋残っていますが、主に明治後期から昭和初期にかけて架けられたもので、江戸時代からの伝統的な技法と明治以降の近代的な技法によって架けられた橋が混在しているという特徴があります。

石橋が架けられた理由としては三つあります。一つ目は、石炭を積んだトロッコに耐えられ100年以上持つことができること、二つ目に世知原に原料となる石材が豊富にあり、石材を加工する技術を持った石工がたくさんいたこと。そして三つ目は、石橋の建設を推進した「世知原の近代化の父」と言われ、後に国会議員となられた中倉万次郎という人物の存在が大きかったと言われています。

